

# 平成29年度 第3回四街道市障害者自立支援協議会

## 議 事 録

日時 平成30年1月16日（火） 午後1時30分～午後2時55分まで

場所 保健センター3階 第2会議室

出席委員 川崎 鉄男 委員 清水 真奈美委員 伊藤 郁 委員 金子 進 委員  
神野 孝浩 委員 木内 操 委員 坂本 紀久 委員 菅原 保 委員  
田島 ゆり 委員 坪井 澄子 委員 戸室 美佐子委員 中村 史夫委員  
橋本 美枝 委員 藤井 康行 委員 山中 正和 委員

事務局 福祉サービス部長 福祉サービス部次長 障害者支援課長 他事務局職員9名

傍聴者 2名

### 会議次第

#### 1. 開 会

#### 2. 議題

- 1) 専門部会から活動報告及び活動計画について
- 2) 第5期四街道市障害福祉計画（案）・第1期障害児福祉計画（案）について
- 3) その他

#### 3. 閉 会

## 2. 議 題

### 1) 専門部会から活動報告及び活動計画について

#### ①生活部会

##### 【木内委員】

（資料1 専門部会からの活動報告及び活動計画に沿って報告）

##### 【川崎会長】

ただいまの説明に対し、質問・意見があればお願いしたい。

##### 【坪井】

平成30年度の活動計画に視察を行うことが記されている。療育部会としても、とても興味深いものであるが、視察に同行する者の人数を増やすこと、また他の部会員が同行することは可能か。

##### 【事務局】

視察を受け入れてくれる野田市や柏市次第。相手方の許可を得られれば問題ないと考える。

【川崎会長】

他に意見がないようであれば、就労部会の報告に移る。

## ②就労部会

【清水委員】

(資料1 専門部会からの活動報告及び活動計画に沿って報告)

【川崎会長】

ただいまの説明に対し、質問・意見があればお願いしたい。

【橋本委員】

合同説明会に参加された26名はどんな方たちなのか。

【清水委員】

特別支援学校の生徒、地域活動支援センターの利用者、どこにも所属をしていない者、就労に結びついていないが興味のある者、就労しているけども別のことも模索中の者など様々である。

【橋本委員】

参加されたのは当事者なのか。

【清水委員】

当事者が主であるが、家族と共に参加している人もいた。

【橋本委員】

障害の種別としては、知的障害者が多いのか。

【事務局】

参加された人の障害者種別や所属を確認していないので詳しくは把握出来ていない。確認できる限りでは、知的障害者が多い印象がであった。

【川崎会長】

他に意見がないようであれば、療育・教育部会の報告に移る。

## ③療育・教育部会

【坪井委員】

(資料1 専門部会からの活動報告及び活動計画に沿って報告)

【川崎会長】

ただいまの説明に対し、質問・意見があればお願いしたい。ないようなので、この議題については以上とする。

## 2) 第5期四街道市障害福祉計画(案)・第1期障害児福祉計画(案)について

【事務局】

(資料2 第5期四街道市障害福祉計画(案)・第1期四街道市障害児福祉計画(案)に沿って説明。)

【川崎会長】

ただいまの説明に対し、質問・意見があればお願いしたい。

【山中委員】

P35「3 県及び障害保健福祉圏域との調整・協力」について、「健康福祉センターの所管区域を基準

とした16の障害保健福祉圏域」とあるが、聴覚障害者の場合、手話の出来るヘルパーの派遣など市ではなく県の事業を利用することが多い。視覚障害者も同様であり、「16の障害保健福祉圏域」ではカバーしきれないと思う。そのため、「各障害に特化した専門の機関と連携していく」と明記してほしい。障害者マイノリティの社会について考えてもらい、配慮の必要性があることを強く主張したい。

【事務局】

県の事業の見込み量についても、計画に載せる必要があるということか。

【山中委員】

数字だけではわからないことが多い。具体的にどのような人に対して、どのような支援をしているのかをわかるようにしてもらいたい。

【事務局】

一つのサービスにおいて、障害種別ごとに記すということか。この計画は、全国的に同じような形式で作成しており、そこまで細かい見込み量を提示する予定はなく、そのまま進めたいと考える。

【伊藤委員】

各サービスの見込み量の算出方法はわかった。だが、例えば就労継続支援B型や短期入所の利用者の見込み量について、現状維持を示すような見込み量が示されているが、実際の利用者の増加率に即していない。すべてを一枠におさめた計画を作成することで、実際のニーズとリンクしているのか疑問を感じる。この計画には、現実的に市が対応可能とする数字を載せるのか、それとも今後必要とされる数字を載せるのかどちらなのか。

【事務局】

平成27～28年の実績のあるサービスについては、それを元に、今後の増加率を見込みながら、算出している。

【伊藤委員】

現在、自分が関わる4人の利用者は、特別支援学校を卒業後の進路が決まっていない状況である。市内の福祉サービス事業所数が少なく、受入先がないことに悩む保護者が多い。就労継続支援B型の利用や生活介護の利用者数は増えることがすでに予想されており、その見込み量が計画に反映されておらず、一致していないのではないか。利用者たちのニーズに応えられていない状況の中で、計画のための見込み量を掲げることが気になる。

【事務局】

今後、市内の社会資源がどれほど増加するか見込めない。放課後等デイサービスについては実績から今後も増加することを予想し、現時点で増加することが予想できるサービスについてはそれを見込んで、数値化している。変化の少ないサービスについては、実績に近い数値を見込んでいる。

【伊藤委員】

放課後デイサービスの利用者が増えるということは、学校を卒業後、その人数がほぼそのまま就労系サービスや生活介護の利用者に移行してくると思う。

【事務局】

放課後デイサービスを利用した人たちの進路については現段階では判断できない。現状では伸び率で考えることしかできない。この計画では市の見込量を定めており、県の事業については別に県が定めている。

**【山中委員】**

県が行う事業について、県が定めるのみでは市は動かないので、市でも定めるべきである。県の事業について、四街道市民に周知されていないものが多い。基本計画と福祉計画を合わせたものを策定することはできないのか。

**【事務局】**

この計画については、事業の周知を目的とするものでなく、市のサービス提供について数値化するものである。障害者基本計画は障害者基本法第11条第3項に、障害福祉計画は障害者総合支援法第88条に基づくものである。それぞれの計画期間は決まっており、政令指定都市のように合わせることは出来ないで、県と連携しながら、それぞれの計画を策定しなくてはならない。

**【山中委員】**

聴覚障害者や視覚障害者は、市の事業では足りず、県の事業に頼ることが多い。そのような必要性が生じていることを皆に知ってもらいたい。当事者としては、やはりP35「3 県および障害保健福祉圏域との調整・協力」に一文追記してもらいたい。

**【川崎会長】**

県の圏域数は、16で間違いないのか。

**【事務局】**

では、山中委員の意見を取り入れ、P35中の項目に「視覚障害者センター、聴覚障害者センター」と追記する。圏域数についても再度確認し、必要に応じて修正させてもらう。

**【川崎会長】**

P32「7 市独自で行っている障害福祉サービス」に「グループホーム運営費補助金」は載らないのか。

**【事務局】**

P32に記載される障害福祉サービスについては、個人に対するサービス名を記載しているため、グループホーム運営費補助金については載せていない。

**【川崎会長】**

他に何か意見はあるか。ないようであれば、議題2についての協議は以上とし、承認してよろしいか。では、そのようにする。

### 3) その他

**【事務局】**

今日の福祉計画については、平成30年2月5日の保健福祉審議会本会において承認された後、パブリックコメントを2月9日～3月17日まで実施する予定である。次回の会議は、5月を予定しており、また通知にて連絡させてもらう。

**【川崎会長】**

他に何か意見はあるか。

**【金子委員】**

防災部会、スポーツ部会は現在どのような状態となっているのか。

**【事務局】**

防災部会については停止中。スポーツ部会については、事務局と担当部署で協議中であるため次回の会議で報告できるようにする。

【川崎会長】

では、本日の自立支援協議会はこれで終了とする。